

Title	台湾における半導体企業の投資戦略
Sub Title	
Author	許史金(Kiyo, Shikin) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1430号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1430

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	鈴木 研究会	学籍番号	89728345	氏名	許史金
(論文題名)					
台湾における半導体企業の投資戦略					
(内容の要旨)					
<p>台湾の半導体企業は経営資源を半導体製造に集中するように、製造に特化し、分業体制を構築し急速に成長してきた。従来の半導体メーカーの一貫生産の事業モデル以外に、ファンドリー戦略で、好業績をあげてきた。特に、1998年に世界の半導体企業の不況で台湾の半導体企業の積極的な投資態度は投資を抑える日本の半導体メーカーと対照になっている。</p> <p>しかし、台湾の半導体企業は世界市場に参入するのは歴史が短いので、1999年1月現在まで、成功と言えるが、これからも、株主資本価値を高め、競争優位を保つための投資戦略について仮説を立て、検証した。</p> <p>ハイテク企業など技術性に関わる投資戦略を構築する際、製品の差別化とコストと2つの軸で考量することができる。まだ、半導体産業の特徴を踏まえて、この2つの軸を実行する変数を工場の総キャパシティ、早期投資、業界内提携、設計企業との資本参加、微加工技術、特許、小ロット生産、納期の短縮、顧客密着度を高めるなどの9仮説を立て、台湾の主な半導体企業(9社)を検証し、台湾の半導体企業は企業の株主資本価値を高めるための投資戦略を提案する。</p>					